



作者部類

四

特別
イ 4
3163
73(4)

圖書





勅

藤敦兼

伊豫守敦家

北野小神

官原右良

上總守高標

續人不知

右兵衛督

平忠度

杉了御忠威

但馬守

平理正

脩理大夫經威

苙木田成長

藤宗理

大御言宗家
母高松院左衛門佐

正位上三河守

卜部兼直兼茂

吉田神主

源信定



苙木田延成

祿宣成長

前備後守前右京大夫

藤信実

前九京大夫隆信
法名葬西

勅一

勅二一 七二一

勅玉四凡二

勅一玉三

勅一

勅二一



勅今二遺一凡一新十

勅一

勅二續二今一遺一才一

勅十續十六今九八遺十九才一玉六才五新十



藤

泰儀誰經

勅二續二今一遺一改

源有長

前刑部御少辨長俊

勅三續二今遺二才三又三今二凡新十一

藤光俊

按察使光親
真親

勅四續十今遺十六才十五又六今四新十三

祝部忠成

日吉祢直親成資成子
和泉才祢直

勅一今遺一續一

平泰時

前左京大夫義時

勅三續三今五遺三才一玉又三今新十一

中原師季

大頭以師能

勅一三位續二今一五一

中原師貞

主計以師國
即教師茂入道一卒

勅一續一五二又三

藤成宗

季宗父在五位門人

勅三續

平重時

前左京大夫多時

勅三續二今二四位遺一五三又三今新十一

源兼康

前播磨守有長朝臣

勅三今一才一五二又二今一

前左京大夫

平政村

前左京大夫多時

藤隆祐

才二位家隆

勅一續二今十三遺九才一玉四
又三今一凡一新一新十三
勅二續四今七四位遺五才三
玉二又八今二凡四新今二

平信繁

前河内守繁雅

勅一

志木田延季

祢直成長氏九

勅二今二遺二現

賀茂種平

神主幸平

續遺一

藤季宗

彈正大胤成宗

續一今一遺一四位才一

丹治理長

圖書及徑基子

續一遺一才一玉二又今一改

藤為能

前越前隆能

續一今一遺三才三又今一改

祝部成賢

祢直成茂

續一今二遺一才一玉二又二今一

藤涇定

前審議親定

續

大藏大輔

前施茶院使

九馬才及

源九

藤伊長

少三位伊時

續一今二

藤伊嗣

大納言伊平
号導道

續一

中原師光

大外記師重

續一改遺一才二玉一新十一

菅原孝標

推四位自餘集皆

今一

藤範忠

前内藏才及清範

今一

源俊定

侍臣具定

今二才一又一

藤伊信

少三位為繼

今一現遺一才一

藤仲能

今一

大江忠成

大膳才大夫忠光

今玉一

源兼氏

有長朝臣

前日向守

根律守住吉神主

津守国平

神主經国

今一遺二才三又三才一新十一

中原行実

前備中守行範

今一遺三五位及才一

祝部国長

少位資長正四位下登

今一遺新十一

藤則俊

前木才乃永光

今一位現遺三玉一

源義氏

上諸外義兼

遺一及

藤忠資

從二少伊忠

遺一才一又一

丹波尚長

經長朝臣

遺二才一又一新十一

和氣禰成

正四位織正親成

遺玉二凡一

菅原在匡

在章

遺一

紀泚文

備前守
国造宣親

遺一及遺一才一又一新十一

化守守

備前守

現

前九宗才大夫
藤室名

前宮内少卿室賴

遺一

源親長

九馬才及兼康朝臣

遺二五位才五五二二新子

賀茂久世

神主從三位氏久

遺一才三五二二新子

祝部成長

祢直成賢

遺一才二二二新子

平定時

武藏守朝直

遺三五位才六五二二新子

平時村

九宗大夫政村

遺四五位才五五二二一

津守國助

神主國平

今遺四五位才六五二二

高階宗成

木二才及時宗
母片國祢直加茂久保

遺三五位才三五二二新子

源通有

後久我太政大臣通光

才一

丹波長有

典宗及長忠

才一五三新子

度會行忠

新直行繼
度會祢直是始人三

才一五

中臣祐

祐賢
正中元九年

才三二五二二新子

源邦長

左馬及兼康

才三五二二新子

源兼孝

時長朝臣

才一

平貞時

法光守時宗
實勝寺

才五七七七三二新子

藤為信

九馬及伊信

才四

藤親方

木二及俊嗣

才一五三

藤業尹

才一五

津守棟国

国平

才一五位才七二二新子

賀茂経久

神主才三位氏久

才二五二二二新子

相模守

春日若宮神主

前日向守

龜山院上亮西
櫻津守正西下

陸奥守

典宗及

現

現

春宮才亮充將

藤為道

大納言為世

才七玉三才十五才十新千七

藤副房

大納言良教

才一

祝戸行氏

日吉祢宜才四十一才祢宜行言 才一才二才三

祝戸成久

祢宜成良

才二才五才二新千四

中原師宗

在春子

才二玉三才二新千一

賀茂在藤

在春子

才一玉一

賀茂遠久

從三位久

才一才一凡一新千一

鴨祐世

祐幸

才一五伍

藤景房

左衛尉威房

才一

高偕成朝

右京大夫宗成

才一玉一才一

藤範重

乾親朝臣
實為信子

才

志木田延行

内宮祢宜延成

才一

賀茂久宗

神主久世

才一才一

藤徑清

神主助

才一才二才一

津守国冬

神主国助

才四玉一才十才七新千十一

津守国道

神主国助
国冬為子

才一玉一才六才五新千七

平宗宜

陸奥守宜時

才三玉五 才九 才三凡一新千一

清兼

左衛門親長

才一玉一才三才一新千一

紀泚氏

紀伊守泚氏

才一玉一才二才一新千一

藤為宗

大納言為世
言家夫

才一

彈正左衛門
後守多院上直
笛長右直牌

藤信履

才

志木田氏忠 近李

才一新十

中臣祐親 祐茂祐賢才
元應三十九年

才一玉一三三二新十

藤冬隆 隆祐朝臣

玉二一三二凡

左中將 藤行房 才三位

玉一五位 一凡二

出菜又宮内御 丹波忠守 長右朝臣

玉一三三二凡一

祢 度會常良 任從三位
政昌

玉一

定成子 藤定成 才三位

玉五二凡一

源具顯 參議具氏

玉一

藤冬經 為信御子國枝父

玉一

藤實文

玉一

藤基威

玉一

丹波長典

玉二凡一

源兼胤 民了少仲
行長朝臣

玉一三新十

高階宗俊 才二才乃時宗

玉一

右京大夫正四位下 三善康衡 脩理才大夫雅衡

玉一

賀茂景久 才三位 氏久

玉一

衣笠中院雅久 藤賴清

玉一凡一

藤忠兼

玉一

賀茂忠久 經久

玉一

藤伊能

玉一

春日神王
大中臣泰方 春日神主泰長

玉一

脩理大夫
平維負 陸奥守宗宜

玉一

藤為副

後宇多院上北面
撰津守右近將監
前參議為實

玉一

津守國安

津守國直

玉一

藤雅朝

參議雅有

玉一

祝部行親

日吉祢宜行氏

玉一

藤信雅

信徑朝臣

玉一

三善遠行

衡之

玉一

藤基行

玉一

紀泚久

玉一

惟宗光吉

玉二

在上
苙木田氏忠

玉一

賀茂師久 遠久

玉一

藤賴泰

玉一

三善春衡 康衡朝臣

玉一

藤隆氏

玉一

藤懷世 業平朝臣

玉一

祢
鴨祐敦 祢宜行三位祐実

玉一

藤重名

玉一

雅宗時俊 下野守良俊

又一新十

藤忠定 參議教経

又

大中臣長胤

又

度會延誠 一祐称宣常良

又凡一

度會朝棟 朝親

又凡一

賀茂基久 神主徑多

又新十

鴨祐治

又

藤経右

又

季康子也 藤為冬

又一新十三

源長俊

又

藤為基

凡七二

藤教兼

凡四

藤為名

凡二新十

藤新行

凡四

和氣仲成

凡一

藤隆清 正三任隆教

凡一

藤實熙

凡一

藤宗光 前大納言賢明

凡一

藤行信

凡一

安倍宗長

凡一

和氣金成

凡一

藤懷通

形了大補業平朝臣

凡一新十一

藤為量

凡一新十一

賀茂雅久

凡一新十一

鴨祐光

祐春

凡一新十一

賀茂惟久

凡一

賀茂教久

凡一新十一

藤為遠

前大納言為定

新十一六

源基氏

亦持院贈左大臣

新十一六

源清氏

阿波守和氏

新十一四

惟宗光之

右京大夫光吉朝臣
大内记光庭為子

新十一二

藤為重

右中將為冬朝臣

新十一二

源和彥

左衛門佐又道

凡一新十一

藤行甫

從三位隆朝

新十一一

丹波知長

出雲守尚長朝臣

新十一一

藤雅冬

中納言雅孝

新十一

菅長衡

從三位國長

新十一

藤業清

内藏少入道宗業孫子

新十一

藤朝尹

懷通朝臣子

新十一

藤忠右

飛鳥井

新十一

飛鳥井

藤教清

并靜清師

新十一

紀宗基

御厨子取預

新十一

小槻匡遠

四位左京大夫

新十一

源宗行

新十一

中原師重

大外記師尚

新十一

安倍泰光

陰陽頭有弘

新十一

祝了忠長

権祢且國長

新十一

源碩氏

細川陸奥守

凡新十一

陰四位常通不存以旨略朝臣宗

源賴春

細川積後守

凡新十一

源和義

凡

五位

新十朝臣

祝了成繁

刑了少輔成實子

新十一

聖德太子事

見公事部九月十五日灌頂

行基大菩薩是大唐清涼山文殊之化為佛法興隆
離上位蓮臺為蒼生利益求下界母胎於浚海朝廷
八年說生和泉國大鳥郡蜂田郡家之內大菩薩
俗号高志史首幼交童雅化他為業長誘男女
修善為本年十五歲出家入道北四受具足戒即
依附日本定照新羅惠基初任法興寺學習法
相大乘兼脩利他之行生知自通不待師說別譯
瑜伽論一卷建立宗旨一日夜間十八時脩行一伽

藍之內三夜月安居馳意六道經論載輦迴躅八
方衣鉢隨身或宿山林荆藪為葺或留原野沙石
為床棲息之處則構石塔化他之地之地忽立精舍
橋構河岸使通人畜治作浦令避風浪畏膽甘毒
苗修築池塘多見行人建立施院出家以後引
導生母安在右京依紀堂盡力孝養自介以降
一人歸依万民誓首其間取為利他之事僧院
廿四院厄院十五取橋六楯三取布施屋九處舩
息二取池十五處溝七處掘川四处直道一处大井
堰一处就中養老五年五月受命朝廷參上京都

得度也于時寺史乙鷹以己居宅奉施菩薩即
立精舍号菅原寺

天平七年十二月廿四日天皇行幸菅原寺一百人
得度使号喜光寺也

神龜二年九月將諸弟子行到山崎河不得船
假掩留河中見有天柱大菩薩問云彼柱有知人
矣 或人申云往昔尊舩大德處度橋天平五年

壬三月朝廷与輦車一两爰大菩薩和哥云

止夫久苗未和礼尔太未倍利以加尔止、毛、与
吕已倍止毛八年於久修園結夏安居七月二日乘

船下去善福寺於寺內以二千餘蓮花庄嚴以二千
餘蓮浮於河水逆道出居俄尔之間三僧乘船到
來
一僧波羅門僧正林邑僧一人大唐僧云云

時波羅門僧正執首大菩薩云南謨阿利耶摩訶薩
埵波耶云大菩薩答并云南謨阿利耶波魯告帝也
波羅耶善地薩埵波耶即波羅門僧正和哥云伽毗
羅衛尔聞天吾來之日本乃文殊乃御客今日見都
苗加奈則設每教稱文殊也十一年安居久修園德度百十
四人同十三年春三月掩留泉橋院天皇行幸終日清談
奉施食封一百户尤大臣披朝臣奉施食封五十户于

時天皇玉駕巡於泉河乃請大菩薩繪日譚樂大臣彈琴
云蓮葉尔漚信水乃玉如央加礼留人乃安不加字礼之
佐天皇和哥曰玉乃如礼苗人尔於保呂計尔吾之念波
之已尔安波女也但取施户大菩薩不受仍置大藏
首廿年十一月天皇行幸菅原寺一百人得度廿一
年正月於平城中嶋宮奉請大菩薩而太上天皇
中宮皇后并三取出家受菩薩戒成御弟子也
太上御名勝滿中宮御名德滿皇后御名萬福云
大上聖武皇帝中宮光明皇后皇后考檢皇女帝
也

オホキミツノクラヒカキノモトノ人丸ナシノヒシリナリケル
コレハキミモ人モ身ヲアハセタリト云ナルヘシアキノユフヘタウタ
カハミナカル、モミナラミカトノ御メハニシキトミタマヒルノアレタ
ヨレノヤフノサクラハ人丸カ心ニハクモカトソヲホヘケルマタヤフヘノア
カヒト、云人アリケリ哥ニアヤシクタヘナリケリ人丸ハアサヒト
カカミニタムフカタク赤人ハ人丸カシモミタ、シフカタクナシ有
ケル

真名序

先師柿本太夫云云

私曰大夫者五位以上之稱号諸節會時内弁召群臣曰
マキケンタキ云云是大夫也應古王公以下昇殿憶也大夫者尤
上位号也

仲實古
目錄

金玉集序曰正三位柿本人麿者和哥仙也云云

仲實朝臣同古今序書之上者每前子細

柿本大夫者和哥之上仙也又云仕持統文武之聖朝遇新
田高市之皇子

私曰大夫事載先段畢又奉仕持統文武二代之人不可

又聖武御代

才ホキ三八臣也云々人麿カ哥ノ本ニテ哥ノ臣ニテ有テ
リト云々

私云臣字訓才ホキ三ナリ勿論然然而大ト稱号時臣
字ヲホキ三ト續ル人丸哥臣ヤ云々

是荒涼之譏勢也凡才ホキ三八帝王新王皇子未賜姓代
御後諸王之名ヤ獨非三位之号

人麿哥雖揚大寶每慶雲以後之御代也

私日以之勘之人丸過文武之聖代難及聖武之御
代者也

柿本者天足彦押人命之後也右口傳云或曰

敏達天皇御宇家門依有柿樹為柿本臣氏云々

奈良帝一
或抄本云一

人麿者雖為萬葉集撰者不及寶字二年云々

古今和
三ノ本

宋女投猿澤池之時奈良帝幸其所人麿作哥云々

己上推之人麿文武御代之人也

遺唐使大伴宿禰佐平彦丸山城史生上道人丸副使

陸奥从從五位下玉手人丸云々件使亦天平勝室元

年四月二日進發同二年九月廿四日歸着紀伊国云々

思之異姓同名之人也人丸入唐之事拾遺集哥外

曾無所見

アマトフヤカリノウカヒヲエテシカナナラノミヤコニコトツテヤラシ
モロコシニテヨメル

萬葉集云天平八年遣新羅國使於筑紫誦詠云
私曰遣新羅之使吾人丸棠之彼使等令詠吟人磨
歌瓦其例證常在之而如拾遺集詞者人磨唐唐之
由見之人丸家集於唐國詠哥在之旁不審應支
之

イノチアレヲホクスルニアヒヌレハコトシハカリノ花ハミサリツ

左京大夫碩輔久壽二年二月人丸ヲ清輔朝臣ニツ
タヘケルトキ花下言志トイフコトヲ

秘傳

近代尊早多禰柿本山邊訂事具載人倫部ナクサメ
トシ

マタヤマヘヘノアカヒト、云人有ケリ奇ニアヤシクタヘナリ
ケリ人丸ハアカ人カカミミタニツカタク赤人ハ人丸カシモニ
タニニコトカタクナニ有ケル

勳之文武天皇之御代也

藤原敦隆引姓氏錄云山邊宿祢赤人垂仁天皇之後
也裔孫正六位山邊大走人云

神龜三年秋九月幸幡磨國印南郡之時山邊
赤人從駕依奇曰イナミノ、アサキオシナミサ子シヨ

ノ千十カクシアルハイハシオホユ

藤原盛房三十六人傳載之

四史

神龜三年秋九月被定造頓宮司并裝束司等為將
幸幡磨印南野ワキノ玉邑美頓宮辛酉從駕人丑郡
司百性等供奉行在所者授位賜錄各有差私曰
思之赤人從駕之由見萬葉集然者定賜位階歟
又於叙位者无可書其加級然而無位階之取見
案之名虫授位猶未載詔書仍不書之歟
山邊赤人聖武天皇御上總国山邊郡出来之人也
云々養老神龜兩代仕之云々

私曰御門之龍田河御歌者現有之於吉野山花
詠雲之歌者人丸歌中未見之如何推之

專為謂合躰事整對句之文章書之歟可変之
正三位事日本紀并万葉集及諸書等古來
叙位歷名曾以無三位之取見愚試推之曰依
為和哥之上仙令崇敬之推而加上階之位歟
彼 素戔鳴尊者依為世一字之祖神既祢
天照太神之兄以之須准證例哉

カサカナヲカモコロシニワタリテ侍ケルトキ書ノ十カウタヨミ
テ侍ケル返シカナヲカナシノ上ニミエシコシマノシマカクレ

ユクソラモナシキニワカレテ

彼證本註云金罍仁明天皇御時人也

養和四年九月二日畫御前繪

八雲抄云

万葉集作者オホケレト家持人丸赤人ナトラ棟梁ト
セリ其後野相公在納言ナト此道ニタヘタル卿相ヤ
ソノホカ遍照素性小野伊勢業平貫之躬恒忠峯
ニコトニコノ道ノヒシリヤ

八雲抄云

先年ニ右今ノ哥ノ殊ニ心ニシムラカキツカフ事アリキ右ヲ
ハナニトナクツカヒタリシヲ小野夢ニミエテイハクワレトイセトナ
ラヒタル女哥ヨミニテ侍ルヲ此御哥合ニ皆伊勢ヲ丸赤ニワレ

ヲハ右ニツカハレテ侍ル事フカキ愁ヤトイフ夢サメテカノ巻物
ヲミルニ番コトニ伊勢丸赤小町ハ右ナリケルコレヲミルニ具ハ恐
具ハ隨喜スサレハコレホトノコトニモ心ヲ留メテラミケル事恐
右ニヨリテ巻物ヲスナハテ火中入早又凡首夢ニ小町カキヨリ
カ子ヲ百兩ウルト云事ヲミタリシヨリ天性哥ノヤウコトニイミ
シキウヘ小町ヲハ深ク信仰ス今テ又カカリ勝事トスシ

イニシヘノ世々ノミカトノ和哥ノ道ニナサケキユエ給タメシモオホ
クコソ延喜ノ帝ハ躬恒ヲ御前ノミハシノモトニメシテユミナリ月
ノ入方ヲ御尋アリ村上ノ帝ハ梨壺ノ五人御前ニナカクシテ
ナタカキ月ヲ詠給シコト世ノシリニアラサリシコトハ君ノ

御マツリコトノオモクニツ子カワカノ道長シタルタメニヒクヘ
キニアラス寛平法皇ノアヤシノシロト云モノメシアケテクモ立
山ハト信公ノ松ノ枝ノ真袋ノトキ九條殿ノ貫之ヲ家ニ立
入給ヒケン面目カキリナクナト家ノ集ニモカレタルヨリカク
申タリシヲ鷹司殿マコトニナカキセマテアトヲ残サン事道ノ
思出ニモナリ又ヘク侍ヲタイコムラカミノフルキタメシニコツ
中々ヲクセラル心ナシテ侍レ九條殿ノナトセノマツノカケ
コトニシタカフヘキ事ニテ侍ヲ友ナ鳥ノ跡ヤウルカタモヤ
トクメラルル事ニテ

延喜御時殿上ノヲノコトモノ中ニメシアケラレテヲノク

カサシ侍ケルワイテニ凡河内躬恒

カサセトモ老モカクレヌコノ春ヲ花ノオモテハフセツラナル躬
恒或説近衛舍人定國ノ大將時隨身ニ然_ニ而依和
哥達者被聽一日之昇殿相交侍臣献和歌之例ヤ
先師土列刺史叙古今歌粗以自歸_ニ忠忠峯以記
氏稱先師也

梨壺五人メテタシトイヘ凡彼古今ノ四人ニヲヨフヘカラス
能宣元補ハ皇代ノ上を可然之哥人也順又誓古ノ者
也望城時文ハタ、父カ子ト云フハカリ、其後兼盛皇
之好忠ナト昔ノアトヲロキテコトナル哥ヨミナリカノ輩ノ

後ハタ、公任卿一人天下無雙萬人コレニヲモク又道信
實方長能道濟ナトヲ哥讀トス其外モ道徳母但馬内侍
或部相摸上古ニハ千ス哥人、其外モ道徳母但馬内侍
様ノ哥人多侍シモニナウセテ天下ニ哥人ナキカコトシ
六人カ黨トテワノコロノシリケルハ範永棟仲兼長經衡
頼家頼實是ホシ範永カホカハ哥ヨトモニエス

歌讀事

兼盛皇子之好忠ナト昔ノ跡ヲツキテコトナル哥讀ナリ
カノ輩ノ後ハタ、公任卿一人天下無雙万人コレニヲモ
ク又道信實方長能道濟ナトヲ哥人トス其外ハ

赤染衛門紫式部相摸上古ニハ千又哥人之其外モ道徳
馬内侍ヤウノ哥人ヲホク侍シモニナウセ侍シ後ハ天下哥
人無カコトシ我モト思タル人ハオホカレ上ニモサレテ
其沙汰有度ナシ公任御無ニ其三人ニテ有斗クシ
モコモリ余シノ千ハイヨノ、云カキリナシ六人カ黨トテソノ
比クシリケルハ範永棟仲兼長經衡頼家頼實コレ範永カ
外ハ哥讀トモニエス上下ツヤク哥讀ト云モノアトラケワリ
タリ

コノ比 庚辰ユリカ様ニ侍ケレ道ノ宗近モヲトシノ秋
為実御ヲハシマサリヤ
ハ十九ニテウヒ玉ヒ又吉野ノ宮ノ天皇コソ昔ノ御代

トモニオトリ玉ハヌコノ道ノキミニテハレマシヌル後ハ前大
納言御教ハカリコソ哥ヨム人トテハオハスレ鬢事歛
爰ニ至愚ノ元盛ハ新後撰ヨリコノカタ三代
勅集ノ作者ニテ彼五相トニ今テ世ニ遺タレ厄恨メシキ
コトハ未ノ世マテモシノハスヘキ一首ヲ持タリセハツ井ノ
ヨレテモシルヘトハ頼テマシカル事ヲ思ニヨリテ今モ見
ソハレ後ニ忍ヘトテ何トナキイタツラ事ヲ書シルシテ
宗匠ノ家ニ奇ヘキ部類五百卷ハカリモヤ侍ラシテ
ツカラミツカラヒトリシテタシナシ侍ラハコノミナノ神モ
守リ玉ヘルニヤ今年八十年ノ老ヲカサヌ

一条院御時廣澤ノ月ノ夜範永カ月ノ光モサ
ヒシカリケリト續ルヲ四条大納言キテ文ツカハシ
タリケルヲ申イタシテソレタニハコノソコニラサメテ子
孫ニ傳タリトキ、侍リ祝部成茂相傳之

證歌納事

和哥ハ從古每師能目當初肥後進士ト云ケ
ル時入長能家公和歌ハ何様哥續候哉長
能云

山源
山源ニ落テ積レル紅葉ノ乾ル上ニ時雨降ケリ
如此可續云、自此始長能ヲ為師云

能因法師以長能為師

於和哥道者雖無師道以之為師弟之例
皇太后宮大夫入道首過允金吾基俊始受
古今集說禪門以前達人各諳通之欵是
以下彼家獨相傳ヤ

定賴御問式了赤染衛芳於四糸大納言答云
非一口之論和泉式部コヤトモ人ヲ云ヘキニ續
、哥續也允夫ノ云ヘキニ非ス

見ニ秋ヲ十二、残サシ草ノハラヒトニ替ル野ヘノケ
シキラ 女房

右申云草ノ原キ、ツカス願枯野判衣何ニ
残寸ニ草ノ原ト云ヘキ正ニニ冊リ侍ヌレ右方
人草ノ原難申之糸糸頗ウタ、アルニヤ紫式
ア哥續ノホトヨリモ物書筆ハ殊勝之上
花ノ正ニノ卷ハ殊ニ正ニナルモノ也源氏見サ
ル哥續ハ遺恨ノ事也草原ノ夏哥續ハ
可見源氏事

公任御寬和ノ比天下無双ノ哥人トテステニ百
余ヤヲヘタリ在世ノ時云ニ及ハス経信俊賴已下
子カリ俊成存生マテハ空ノ月日ノ如クアフリシ

カルヲ近比ヨリ公住無下ナリト云夏出来テ浅ク
思ヘル輩少シ有コレコソ三十余年ノ夏也サホ
トノモノヲハ心ニアハス氏サテコソ有ヘキニ一而ニスツル
以外ノ事ノ貫之モサシモナシト云フガニキユエ
哥ノ魔第一ナリケニモ公任御哥名譽言ホトニハ
覺ス少イカニヤラン有レ氏サスカ哥ノ様ヨリコ
ソニエ侍シ

経信御ハカリコソ楚國ニ屈原カ有ケル様ニヒト
リ古躰ヲ存シテナラヒナカリシカト天下ニヨシト定
ムル人ナシ白川院後拾遺センセラレシヲリ経信
御ヲ、キカカラ通俊コレヲ羨ハルコレ未代ノ不審
ナリ然氏ユヘ有事也カノ集ハ天氣ヨリオコラス
通俊コレヲ申ヲコナヘリ

経信御ハ一人天下刻者ニテナラヒナシ其外ハ匡席
俊頼ナト斗也サラテ名譽モ堪能モソノ人ナシ匡
房ハ殊ナル上手ナリシヲ通俊ムカヒサマニ云貴殿ハ
詩紙ニ長シ玉ヘリ何ツシラヌ道ニ入テ哥ヲコノミ玉
トイヘリ匡房カ云今テヨリコソ此道ト、メ侍ラメト
云時ニ経信カ云詩賦ニヨルヘカラス野相ム在納言
ハトモニヨリ侍レト云ケリコレヲキクニサラニ々心ウレ

処ナシ何夏モ當時ノ名譽ト後代ノ名譽トハカクテ
事ニヤ通俊匡房ハ賢臣コソナラヒテ侍ケレト哥ノ道ハ
同日ノ論ニアラス匡房ハマサレリ而ヲサヤウニムカヒ
サマニ云ケルニ匡房モオレケルイカナル事ニカサレト
高陽院ノ哥合ニハ通俊カウタミシルキハコモノメカ子
ヲハ無下ニヒヤウカイナリトアマノコヤ子ハオソロシト難
スケニモイフ取ソノ理アリ

私云匡房郷其後哥ヲトメスヨメリニハ通俊ノ
イヒケルヲ無ニ取レテ今テヨリコソコノ道トメ侍ラ
タトハ云ケルニヤ又匡房御和漢誰談ト云物ニハ
哥ヲコノムハエセ物ナリト云リコレヲ思ニハ匡房
郷ハ思ハヌ事ヲモワサトイハレケルニヤ智玄ノ人
ノ言談諸ニハカリカタシ

悪名事

隆源カオホヲソトリト云道徑カ子スヒサト云テ吳
名ニウク恐ヘシ
基俊ト云者コソ道ノ誓古アリテ俊頼ニトキトキ
アラサフヲリアリシカ然ハ今ノ世ニテテ流タリト云
ヘ氏ソノ骨俊頼ニ及フヘカラス
密勘ニ云彼朝臣ハスヘテ證哥ヲヒカヘ道理ヲ

タレテ哥ヲヨマヌ人ニテ侍ヤツノミ堪能イタリ
テイヒトイフコトミナ秀哥ノ躰ヤ啗大納言ノ
子ニテ殊勝ノ哥ヨシ父子二代ナラフ人ナキニ似タ
リ又年老テ後弥コノ道ニカタハラニ人ナレト思テ
心ノ泉ノワクニマカセテ夙情ノヨリクルニシタリカヒ
テヲテスハ、カラスイヒツケタルカツレリナンスヘキ
コトハリモ思ヒツケラレスアナヲモシロカクカツハイ
ハメトニユレハ時ノ人モ後ノ人モユルレツレハヤカテノ
先例ノ證哥ニナリテ用侍ヤツノホトニヲモシロク
上手ニミエサラン人ハ思ヨルマシキコトナリサクラ

アサノオフノウラナレト云々ソレヨリサキニハ見及侍
ヲヌ物ヲ人ノクセト思ナレテ信仰スルヲヤサレ公基
後公ハ哥ハ俊頼ニソムセラレヌルソカシマ子ヒタマ
フナ真名ノ文字モカニスレリタル夏ナキマニワラハ
ヘノカタルコトニツキテ無匹法界ノイタツラコト哥
ニヨニキラス物ヲ哥ノ外道ナリトソツ子ニ侍ケルモ
父ハ師匠金吾ノイハレシコトナレト哥ヨムヒト俊頼
ヲモトキテハ此一字ハイタツラコトニナリナントウ申
サレ侍シナラヒタル人ハ其短ヲミルノ千ノ人ハツノミ
ニシタカフナリ

後賴朝臣麿答言之事

俊賴ハ天下ニカタヲナラフルモノナクテ数年ヲヘタ
リワカサカリヤヨイツカタヘユキニケンシラス翁ニミヲ
ハユワリテ

敬位清輔

刻後於御心ヲカシクミユルヲ壯年辞身タレ
ノ人モウラミシタフヘキナレトサカリノ時殊為
聲花客或帶皇職顯官或外羽林蘭首ナ
トシテコトニ思出アラシ人ノ我サカリヤヨイツカタ
ヘナトイヘラシヲカシクキユヘキナリサレハサタメ
テサヤウノヒトノ御哥ナルヘシトヲカシ

西行之夏

可依讀人之歌事

八雲抄

定家云哥ノ道ハアトナキコトクナリシヲ西行ト申
モノカヨミナシテイマニツノ凡有ヤトイヘリ西行ハマ
コトニ此道ノ權者ヤ其後ナカコロマテノ哥人昔
ニモヲヨヒ中比ニモコヘテヤ侍ケン

八雲抄

經信近ハ西行カアトヲマナフヘシ其様ハ別之事
キ、ヨキナリ但是ホハ此道ノ堪能ニテイヒイテ
タルサマヲイマノ世ノ人アヒサマニトリナシテ一定
平懐ニカタハライタキコトアリヌヘシ後賴俊成
ハイウレニモワタリテ侍ハツノサマヲマ子ヒ侍ラ

ニコソイタクノ題ソルニシク侍レ

後成大夫入道幸

八雲抄

順徳院作

哥堪能直

順徳院ハ後成御ヲナラヒナキイニシキ坎道ノヒシ
リト思食タリケルニコソハ雲抄ニカセヲハシマスニ元
凡中比ヨリコノカタハコノ道ニエタル人モスクナシタ、経
信チカクハ西行カアトヲマナフヘシソノ操ハ別ニアラスタ
、訶ヲカサラスシテフツフツトイヒタルカキ、ヨキナリタ
、シコロハコノ道ノ堪能ニテイヒイテタルヤウヲ今テノ
ヨノ人アレサマニトリナレテ一定平懐ニ片ハライタキ
一有タヘシ俊頼俊成イワレニモワタリテ侍レハッ

ノタメシヲ学ヒ侍ラニコソイタクソルマシク侍レト云ニ
又大夫入道殿ハ基俊君ニ古今ヲツタヘテオハシケル
ニハチスヲハスナトヨムホトノ哥讀ソ俊頼ニシタカフヘ
カラストイハレケルニウツラナクマノ、入江トヨメル俊頼
ノウタヲミテ禅下ハ金吾ノイマシメニカハラス俊頼
ノ哥ヲマナフヘシトワ云タマヒケルサレハ杵禅下ハ天
下第一ノ宗通ニオハシケルニコソ又通俊卿ハ権大
納言ニハ及ハ子ト後拾遺ヲ撰シテ江咄モ同時
ノ哥仙ナリシカトムカヒサマニ貴殿ハ詩賦ニコソ長
タマヘ何ワシラヌ哥ヲコノミタマフト通俊御ニイ

ハレケルニ此禪門ハ多年ノアイタ判者撰者ヲツト
メテ看ヲナラヘソシリナス人ナカリケルニヤ
ワカ取ノ寄人ニ隆信朝臣ハシメテ糸スル夜奏侍
ルニ建仁ウレシクモワカノウラカセシツカニテシツカニ
テナヨヘンタツノカスニイリヌル
月ユヘニイヒシニハレ山イヨリモイラヌニアクルオホ
リラソウキ
祐盛

判大夫入道又例ノコトナレハ子細クラクシテ
不能申勝芳坊祐盛哥皆不詠普通事
悉亦判者意趣

舞連法師カイヒケル哥ノヤウニイニシキ物ナシ井ノ
シ、ナトイフヲソロシキモノモフス井ノトコトイヒツレハヤ
サシキナリトイマシテヤオシキ物ヲソロシケニイヒ
ナスハ無下ノ事也

有家之隆卿大夫入道ノ門第知家御光俊朝
臣ハ京極黄門之弟子行家雅有ホ卿民了御入
道ノ門徒也

此外嗜道之諸家誰人不受業習説哉不
遑勝計併畧ニ不注也

壬生二品家隆九条三品知家ハ入道京極黄門之

門第云々家隆卿兼五条入道大夫ノ弟子云々
光俊朝臣中院入道大納言弟子但六条内府云
不然云々是右子細被謂也

入道皇太后宮大夫前左衛門基俊弟子云々

鴨長明和哥取ノ寄人ニマイリシヨ

建仁

ワカキミノ千ヨヲワメトヤアキツスニカヨヒツメケシ

アツノツリフ子

藤原秀能和哥取ニマイリシヨ

ツモリユクカキリモミラヌキニミカヨミヨロソヨカケテワカ
ノウラナシ

イロフカキモリソコトノハイカナレハアルカナキカニヒトノシ
ルラシ

新和撰ニスクナクイリタルトフラヒノ次ニ白川

三位時入道ノモトヨリ

カスナラヌカスコワアラヌクナハウルコトノハヲシモナ
トカカクレシ

返シニ首イリテ侍リ人ニノ合点ニモハツレコトニ
トコロヲホキモノニ侍レハ

私云道ニイマタヲモムカサル人ノ取存今テモコノタ
クヒ多シ人ノ合点ニヨリ久ヘクハ撰者何用哉

哥員数年不知誰合准例哉

貫之モサレモナシト云々更ウニキユコ魔第一

し

玉葉樞ノコロハ為氏御ハ哥ノ道ヲハシラス無下
ナル哥ヨミナリ家隆御ナトモ哥ヲハシラヌ
人ナリト云々眼クラクシテ重潤ノ深キヲ不
見心ヲロカニシテ曾雲ノ凌ヲヘタウルナリ

タラチ子ノコトヲミツオモフワカノウラマタモヨ
セエラフ御代ニアイテモ 藤雅孝朝臣

或人云タマヨセエラフトハ勅撰事歎タマヒラフ

ナト云フハキ、ナレタレヒタマヨセエラフト云ル詠ハメ
ツラレ詠ニ侍リ又タラチ子トハ彼朝臣ノ父ト号
スルニ余相公雅有事歎雅有御ハイツレノ撰者
ニテ侍リケルヤラシ

ナラエタル月ヤテラサンワカイヘニウタヘシカセノコロ
クモ 右衛門督為相

此作者幼雅之時嚴親禪崗被滿寄ノ不傳
家風之条勿論也此時宗匠相下向之間被
交父子為故御懷帑然者傳受人与不傳輩
定有心ニ詠作歎

^{本云}建武四年七月六日類聚之更清書之忌餘等
之相廻成日之勞功連類此愚老之業力忽資
彼者之菩提而已

元盛判

書寫三

刑戶侍郎光之

風雅集新千載集作者亦失錯多端疑
殆非一乾而域眼聊書入本部了

康安二年正月七日

和歌取旧来光之

